

地域環境 NPO の会員の年齢層と参加の様態 — 滋賀県守山市の NPO 法人「びわこ豊穡の郷」を事例として —

山添 史郎, 霜浦 森平, 塚本 利幸, 野田 浩資

1. 問題関心と課題の設定

1.1. NPO・ボランティア団体の会員の「参加の様態」

日本においては、1995年の阪神大震災を契機として、住民／市民による NPO・ボランティア団体の活動が活性化した。これまで、NPO・ボランティア団体と住民／市民参加に関する研究においては、「参加の規定要因」に関する研究が行われてきた(広瀬, 1995;野田他, 2000;塚本他, 2002;塚本他, 2004;宍戸, 2008;奥山, 2009)。NPO・ボランティア団体に参加する人たちは、どのような人なのか、また、どのような要因が住民／市民の NPO・ボランティア団体への参加を促進するのが中心的な研究課題となってきた。

一方、どのような人が、どのように NPO・ボランティア団体に参加しているのかという「参加の様態」については、あまり注目されてこなかった。本稿で取り上げる「参加の様態」については、2つの側面から構成されている。第1に、どのような活動にどれだけ参加しているかという「活動への参加の程度」であり、第2に、どのような活動を重視しているかという「活動の志向性」である。1つの NPO・ボランティア団体の中でも、会員個々の活動への関わり方は、さまざまに異なっており、それぞれの重視する活動には、相違がみられる。NPO・ボランティア団体と住民／市民参加に関する研究においては、「活動への参加の程度」と「活動の志向性」の両側面＝「参加の様態」からのアプローチが必要となろう。

本稿で事例として取り上げる NPO 法人「びわこ豊穡の郷」(以下、「びわこ豊穡の郷」)は、「ゲンジボタルが乱舞する故郷の再現」「琵琶湖とシジミに親しむ湖辺の再現」を目標として掲げ、守山市内を流れる水路・河川を主な対象として活動を行っている。具体的には、地域の水環境の現状を学ぶための水質調査や水生生物調査、地域住民への普及啓発を行うための赤野井湾探検会や水辺の楽校の開催、実践的な活動としてのモデル河川づくりや内湖の清掃活動などを行っている*1。「びわこ豊穡の郷」は、身近な水環境保全を目的とし、多様な活動を展開していることから、地域環境保全を目的とする NPO・ボランティア団体(以下、「地域環境 NPO」)の会員の「参加の様態」を検討する上で、相応しい事例として位置付けられる。

*1 「びわこ豊穡の郷」の詳細については、霜浦他(2002)、霜浦他(2009)、野田編(2009)等を参照。

1.2. 課題の設定と本稿の構成

本稿では、2007年9月に実施した「びわこ豊穡の郷」の会員に対するアンケート調査の結果をもとに、地域環境NPOの会員の年齢層による「参加の様態」（「活動への参加の程度」および「活動の志向性」）の違いを明らかにするとともに、地域環境NPOの会員がどのような「地域リーダー」であるのかについて仮説的に検討を行う^{*2}。年齢層は、地域環境NPOの会員の「参加の様態」や「地域リーダー」のタイプに違いをもたらす要因の1つであると考えられる^{*3} ^{*4}。例えば、仕事を持つ現役の年齢層と退職した年齢層では、会員の「参加の様態」や「地域リーダー」のタイプは異なるものと予想される。

本稿の構成について述べる。2節では、会員の年齢層と基本属性の関係について検討を行う。3節では、会員の年齢層と「びわこ豊穡の郷」への入会理由の関係、4節では、年齢層と「活動への参加の程度」の関係、5節では、年齢層と「活動の志向性」の関係について検討を行う。6節では、年齢層と「参加の様態」の関係について考察を行い、7節では、年齢層による「参加の様態」の相違をもとに、会員の「地域リーダー」のタイプについて仮説的に検討を行う。

*2 アンケート調査は、郵送法により、「びわこ豊穡の郷」の会員363名（調査当時）を対象として実施し、回答者数は228人、回収率は62.8%であった。アンケートでは、「びわこ豊穡の郷」の会員に対し、「びわこ豊穡の郷」のこれまでの活動への評価や今後の活動の方向性、活動への参加の程度や会員の環境配慮行動、基本属性等についての質問を行った。調査票については、野田編（2009）を参照。

*3 筆者らの研究グループでは、地域環境NPOの会員の「参加の様態」に関する研究を進めてきた。山添他（2008）では、「居住歴」に着目し、居住歴の相違による「活動の志向性」の違いを明らかにした。また、霜浦他（2009）においては、会員の「活動の志向性」を「調査重視」「連携重視」「地域重視」の3つに分類し、5つの要因（「性別」「年齢」「入会動機」「財源意識」「入会時期」）が、それらの「活動の志向性」に影響を与えていることを明らかにした。山添他（2012）では、「社会関係資本」に着目し、その質的相違に基づく、「活動への参加の程度」と「活動の志向性」の違いを明らかにした。山添他（2008）においては、「居住歴」と「活動の志向性」、山添他（2012）においては、「社会関係資本のタイプ」と「活動への参加の程度」「活動の志向性」の関係を明らかにし、霜浦他（2009）においては、年齢・性別といった基本属性と「活動の志向性」との関連性を明らかにした。霜浦他（2009）においては、「活動の志向性」に影響を与える要因について重回帰分析を行い、年齢の「活動の志向性」に対する影響力の強さを明らかにしたが、年齢の相違によって、どのように「活動への参加の程度」および「活動の志向性」が異なっているかは明らかとなっておらず、課題として残されている。

*4 NPO・ボランティア団体と地域社会の関係については、社会関係資本論において、研究が行われている。例えば、石田（2008）では、「NPOはその活動を通してコミュニティにおける住民のつながりを意図しないまでもつくりだすことができる」（石田，2008：99）としている。社会関係資本論においては、NPO・ボランティア団体と地域社会とは、影響し合うものとして捉えられることが多かった。筆者らは、福井市を事例として、分野ごとのボランティア活動への参加と自治会等の地域活動への参加の関係について検討を行い、環境を含むいくつかの分野におけるボランティア活動への参加と自治会等の地域活動への参加との関連性を明らかにした（塚本他，2012）。分野による相違はあるものの、ボランティア活動への参加者と自治会等の地域活動への参加者については、重なりがみられ、NPO・ボランティア団体の会員は、地域社会においても活発に活動している「地域リーダー」として位置付けることができよう。

2. 年齢層による会員構成と基本属性

2.1. 年齢層による会員構成

比較を試みるため、「びわこ豊穰の郷」の会員（有効回答数 226 人）の年齢層を「44 歳以下」「45～54 歳」「55～64 歳」「65～69 歳」「70 歳以上」の 5 区分に統合した*5。

「44 歳以下」は、学生や独身の社会人、子供が乳幼児期から学齢期中盤に差し掛かっている年齢層である*6。「45～54 歳」は、子供が学齢期中盤から後半に差し掛かっている年齢層である。「55～64 歳」は、子供が学齢期を終えた年齢層であり、退職をした年齢層も含まれる*7。「65 歳以上」は、仕事を退職した高齢者層である。「65 歳以上」については、サンプル数が多く、年齢層による傾向の違いについて、より詳細な分析を行うため、比較的若く活動的な「65～69 歳」と、より年齢層の高い「70 歳以上」の 2 区分とした。

全体的にみると、「55～64 歳」が多く、30.1%を占めており、その次に、「70 歳以上」が多く、22.6%を占めている。「45～54 歳」については、12.4%と少なくなっており、「44 歳以下」についても、15.0%と少なくなっている（図 1）。

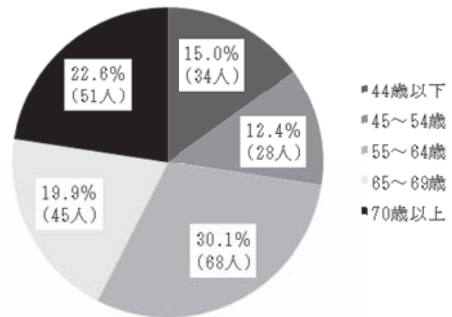


図 1 年齢層による会員構成（5 区分）

*5 年齢層については、「19 歳以下」「20～24 歳」「25～29 歳」「30～34 歳」「35～39 歳」「40～44 歳」「45～49 歳」「50～54 歳」「55～59 歳」「60～64 歳」「65～69 歳」「70～74 歳」「75 歳以上」という 13 区分から選択してもらった。

*6 「44 歳以下」については、多様な特徴を持つ人たちが含まれることから、より詳細に年齢層を区分し、分析を行うべきであるが、サンプル数が少ないため、1つのカテゴリーに統合した。

*7 「55～64 歳」については、現役世代だけでなく、退職者層が含まれるため、2区分とすべきところであるが、本稿のサンプルでは、「現在は働いていない」とする回答者の割合が 1 割程度であるため、1つのカテゴリーとした。

2.2. 年齢層と基本属性の関係

年齢層と基本属性等の関係をみてみたい（表1）。

表1 年齢層×基本属性等

		44歳 以下	45～ 54歳	55～ 64歳	65～ 69歳	70歳 以上	全体
性別* (N = 224)	男性	58.8	75.0	71.6	84.4	88.0	76.3
	女性	41.2	25.0	28.4	15.6	12.0	23.7
職業** (N = 222)	農業	0.0	0.0	9.0	7.0	26.0	9.9
	漁業	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.5
	会社員	20.6	42.9	14.9	9.3	4.0	15.8
	公務員	11.8	39.3	17.9	0.0	2.0	12.6
	教員	2.9	3.6	1.5	0.0	0.0	1.4
	専門職	11.8	3.6	4.5	2.3	2.0	4.5
	自営業	2.9	3.6	6.0	9.3	4.0	5.4
	家事専業	5.9	0.0	13.4	16.3	10.0	10.4
	パート・アルバイト	11.8	7.1	10.4	7.0	0.0	7.2
	学生	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
	現在は働いていない	2.9	0.0	11.9	37.2	40.0	20.3
	その他	0.0	0.0	10.4	11.6	10.0	7.7
居住地** (N = 213)	地付（ずっと守山市に在住）	6.3	29.6	40.3	29.5	64.6	37.1
	転入	25.0	33.3	40.3	54.5	33.3	38.5
	守山市外	68.8	37.0	19.4	15.9	2.1	24.4
農家／非農家** (N = 167)	農家	15.4	33.3	37.5	18.2	64.1	35.9
	非農家	84.6	66.7	62.5	81.8	35.9	64.1
近所づきあいの程度** (N = 220)	相談ごとをするくらい親しくしている	5.9	11.1	15.2	20.9	36.0	19.1
	よく世間話をする	0.0	25.9	36.4	41.9	34.0	30.0
	たまに立ち話をする、あいさつをするだけ、ほとんど付き合っていない	94.1	63.0	48.5	37.2	30.0	50.9
自治会・町内会行事への参加の程度** (N = 222)	ほとんど全てに参加	5.9	42.9	47.1	53.5	73.5	47.3
	関心に応じて参加、ほとんど参加していない、いままで参加したことがない	94.1	57.1	52.9	46.5	26.5	52.7

(注1) 単位：%

(注2) ** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$ (χ^2 検定) ※漸近有意確率

性別については、「44歳以下」において、全体に比べ、女性の割合が高くなっており、「55～64歳」もやや高い。一方、「65～69歳」「70歳以上」においては、男性の割合が高く、ともに8割を超えている。

職業については、「44歳以下」において、「学生」の割合が高く、「専門職」「パート・アルバイト」の割合もやや高い。「45～54歳」については、「会社員」「公務員」が高い。「65～69歳」については、「家事専業」「現在は働いていない」が高く、「70歳以上」については、「農業」「現在は働いていない」が高い。

居住地については、「44歳以下」において、「守山市外」が多く、7割近くを占めている。「45～54歳」についても、「守山市外」が比較的多く、「地付」はやや少ない。「65～69歳」については、「転入」が多く、5割を超えており、「70歳以上」については、「地付」が多く、6割を超えている*8。

農家／非農家については、「70歳以上」において、農家の割合が高く、「44歳以下」「65～69歳」においては、非農家の割合が高くなっている。

「近所づきあいの程度」および「自治会・町内会行事への参加の程度」については、高い年齢層になるほど、それぞれの程度が高くなっており、逆に低い年齢層になるほど、それぞれの程度は低くなっている。

*8 守山市に再転入した7人については、サンプル数が少ないため、考察の対象外とした。

3. 年齢層と入会理由の関係

年齢層と入会理由との関係をもてみたい。

入会理由について、年齢層による比較を行ったところ、「びわ湖の水質と環境への関心」「地域の身近な川や水路の環境への関心」「行政との協働関係への関心」において、有意な差がみられた（表2）^{*9}。

表2 年齢層×入会理由（複数回答）

	44歳以下	45～54歳	55～64歳	65～69歳	70歳以上	全体
びわ湖の水質と環境への関心* (N = 223)	44.1	53.6	61.2	81.4	64.7	62.3
地域の身近な川や水路の環境 への関心** (N = 223)	35.3	57.1	44.8	79.1	60.8	55.2
行政との協働関係への関心** (N = 223)	14.7	7.1	28.4	9.3	33.3	21.1

(注1) 単位：%

(注2) ** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$ (χ^2 検定) ※漸近有意確率

「びわ湖の水質と環境への関心」については、「65～69歳」において特に高く、「44歳以下」において低くなっていた。「地域の身近な川や水路の環境への関心」については、「65～69歳」において高く、「70歳以上」においてやや高い一方、「55～64歳」においてやや低く、「44歳以下」において低くなっていた。「行政との協働関係への関心」については、「55～64歳」「70歳以上」において高く、「44歳以下」においてやや低く、「45～54歳」「65～69歳」において低くなっていた。

*9 「あなたが『びわこ豊穡の郷』に入会している理由は何ですか？」という質問を行い、8項目からあてはまるものすべてを選び、回答してもらった。回答者全体（225人）では、「びわ湖の水質と環境への関心」（62.2%）の回答割合が最も高く、「地域の身近な川や水路の環境への関心」（55.1%）、「住民主体の環境保全活動への関心」（40.0%）、「環境問題一般への関心」（33.3%）、「水辺の生き物の減少への関心」（30.1%）、「地域全体のまちづくりへの関心」（25.8%）、「行政との協働関係への関心」（21.3%）、「その他」（8.9%）の順となっていた。

4. 年齢層と「活動への参加の程度」の関係

年齢層と「活動への参加の程度」との関係をもてみたい（表 3）。

表 3 年齢層×「活動への参加の程度」

		44 歳 以下	45～ 54 歳	55～ 64 歳	65～ 69 歳	70 歳 以上	全体
行事・イベントへの参加 の程度 ** (N = 209)	1年に1度ほど～週に1度ほど	73.5	55.6	46.8	74.4	40.4	56.0
	まったく参加していない	26.5	44.4	53.2	25.6	59.6	44.0
会議への出席の程度 ** (N = 205)	1年に1度ほど～週に1度ほど	55.9	32.0	27.4	71.8	31.1	42.0
	まったく参加していない	44.1	68.0	72.6	28.2	68.9	58.0
部会・プロジェクトへの 所属 (複数回答) (N = 218)	「いきづく湖沼ふれあいモデル 事業」プロジェクト **	17.6	17.9	3.0	20.9	2.1	10.6
	ホテルの森資料館管理運営プ ロジェクト *	2.9	7.1	0.0	9.3	0.0	3.2
	ほたるパーク&ウォーク実行 委員会 *	0.0	17.9	6.1	16.3	6.4	8.7
自治会での清掃活動等へ の参加の程度 ** (N = 183)	ほとんど全てに参加	18.8	68.2	80.0	76.9	76.1	71.6
	関心に応じて参加, ほとんど参加して いない, いままで参加したことがない	81.3	31.8	20.0	23.1	23.9	28.4

(注 1) 単位：%

(注 2) ** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$ (χ^2 検定) ※漸近有意確率

「行事・イベントへの参加の程度」「会議への出席の程度」「部会・プロジェクトへの所属」「自治会での清掃活動等への参加の程度」について、年齢層による比較を行ったところ、有意な差がみられた。

「びわこ豊穰の郷」の活動への参加の形態は、行事・イベントへの参加、および会議への出席に分けられる。行事・イベントには、コア・メンバーとともに多くの一般会員が参加しているが、会議においては組織の方向性に関する議論、あるいは事業の企画立案が行われることから、コア・メンバーが出席することが多い。「行事・イベントへの参加の程度」については、「44歳以下」「65～69歳」において高く、「55～64歳」「70歳以上」において低くなっていた^{*10}。「会議への出席の程度」については、「65～69歳」において特に高く、「44歳以下」も高くなっていた。一方、「45～54歳」「55～64歳」「70歳以上」において低くなっていた。

「びわこ豊穰の郷」では、部会、およびプロジェクトが事業の企画立案・運営を行う中心的な単位となっている。「部会・プロジェクトへの所属」については、「『いきづく湖沼ふれあいモデル事業』プロジェクト」「ホテルの森資料館管理運営プロジェクト」「ほたるパーク&ウォーク実

*10 「現在、『びわこ豊穰の郷』の行事・イベント、または、会議にどの程度参加、出席されていますか？」という質問を行い、「行事・イベントへの参加（調査や清掃などを含む）」「会議への出席（部会や行事準備の打ち合わせを含む）」のそれぞれについて参加・出席の程度を回答してもらった。

行委員会」において有意な差がみられた^{*11}。「『いきづく湖沼ふれあいモデル事業』プロジェクト」については、「44歳以下」「45～54歳」「65～69歳」において高くなっていた。「ホテルの森資料館管理運営プロジェクト」については、「45～54歳」「65～69歳」において高くなっていた。「ほたるパーク&ウォーク実行委員会」については、「45～54歳」「65～69歳」において高くなっていた。

「自治会での清掃活動等への参加の程度」については、「55～64歳」「65～69歳」「70歳以上」においてやや高く、「44歳以下」においてはかなり低くなっていた^{*12}。

5. 年齢層と「活動の志向性」の関係

年齢層と「活動の志向性」との関係をもてみたい(表4)。

表4 年齢層×「活動の志向性」

		44歳以下	45～54歳	55～64歳	65～69歳	70歳以上	全体
これまでで重要であった と思う活動 (複数回答) (N = 212)	赤野井湾探検会*	27.3	42.9	17.7	32.5	14.3	24.5
	水辺の楽校**	18.2	10.7	4.8	2.5	0.0	6.1
	水生生物調査*	3.0	17.9	16.1	15.0	30.6	17.5
	研修会*	0.0	3.6	4.8	0.0	14.3	5.2
	地域情報のネットワーク化*	30.3	17.9	17.7	7.5	4.1	14.6
今後、重視すべき活動 (複数回答) (N = 217)	他の環境ボランティア団体・NPOとの交流・連携*	23.5	33.3	36.9	21.4	12.2	25.8
	身近な川や水路の水質調査、生態系調査*	32.4	66.7	56.9	54.8	63.3	55.3
	身近な川や水路の清掃・美化活動*	14.7	25.9	26.2	23.8	46.9	28.6
	行政からの委託事業*	20.6	7.4	4.6	7.1	4.1	7.8

(注1) 単位：%

(注2) ** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$ (χ^2 検定) ※漸近有意確率

「これまでで重要であったと思う活動」および「今後、重視すべき活動」について、年齢層による比較を行ったところ、有意な差がみられた。

「これまでで重要であったと思う活動」については、「赤野井湾探検会」「水辺の楽校」「水生

*11 「あなたはどの部会・プロジェクトに所属しておられますか?」という質問を行い、「調査改善活動部会」「啓発広報活動部会」「環境省『いきづく湖沼ふれあいモデル事業』プロジェクト」「ほたるの森資料館管理運営プロジェクト」「ほたるパーク&ウォーク実行委員会」「水環境マップⅢプロジェクト」「いずれにも所属していない」という7項目からあてはまるものすべてを選び、回答してもらった。

*12 居住している地域において、身近な川や水路での清掃や環境美化活動が行われているとする回答者(189人)に、それらの活動への参加の程度を回答してもらった。

物調査」「研修会」「地域情報のネットワーク化」において有意な差がみられた^{*13}。

「赤野井湾探検会」は、琵琶湖赤野井湾の自然環境を観察するイベントである。「水辺の楽校」は、守山市内の河川において子どもたちへの環境教育を行う活動である。「水生生物調査」は、会員が守山市内の水路・河川に生息する生き物を調査する活動である。「研修会」は、水環境保全の先進地等について現地研修を行う活動である。「地域情報のネットワーク化」は、水環境保全に取り組む自治会・町内会の活動をホームページ上で紹介する取り組みである。

「赤野井湾探検会」については、「45～54歳」「65～69歳」において高く、「55～64歳」「70歳以上」において低くなっていた。「水辺の楽校」については、低い年齢層になるほど、高くなっていた。「水生生物調査」「研修会」については、「70歳以上」において高くなっていた。「地域情報のネットワーク化」については、「44歳以下」において高く、「65～69歳」「70歳以上」においては、低くなっていた。

「今後、重視すべき活動」については、「他の環境ボランティア団体・NPO との交流・連携」「身近な川や水路の水質調査、生態系調査」「身近な川や水路の清掃・美化活動」「行政からの委託事業」において有意な差がみられた^{*14}。

「他の環境ボランティア団体・NPO との交流・連携」については、「45～54歳」「55～64歳」において高くなっていた。「身近な川や水路の水質調査、生態系調査」については、「45～54歳」「70歳以上」において高く、「44歳以下」で低くなっていた。「身近な川や水路の清掃・美化活動」については、「70歳以上」において高く、「行政からの委託事業」については、「44歳以下」において高くなっていた。

6. 年齢層と「参加の様態」の関係

各年齢層の「参加の様態」について、考察を行う（表5）。

「44歳以下」の年齢層は、「びわこ豊穡の郷」の行事や会議への出席の程度が高かった。活動

*13 「あなたは、これまで『びわこ豊穡の郷』が行ってきた活動の中で、どの活動が重要であったと思われますか？」という質問を行い、13項目から3つを選び、回答してもらった。回答者全体（213人）では、「水質調査」（75.1%）の回答割合が最も高く、「モデル河川づくり」（40.8%）、「ホタル飼育」（33.3%）、「赤野井湾探検会」（24.4%）、「水生生物調査」（17.4%）、「河川ウォッチング」（16.4%）、「地域情報のネットワーク化」（15.0%）、「学区民のつどいなどでの広報PR活動」（8.9%）、「機関紙づくり」（6.6%）、「水辺の楽校」（6.1%）、「その他」（6.0%）、「研修会」（5.2%）、「IT関連の充実」（4.2%）の順となっていた。

*14 「今後の『びわこ豊穡の郷』の活動についておたずねします。今後、どのような活動に重点を置いて取り組んでほしいですか？」という質問を行い、10項目から3つを選び、回答してもらった。回答者全体（218人）では、「身近な川や水路の水質調査、生態系調査」（55.0%）の回答割合が最も高く、「身近な川や水路でホタルが生育する条件の整備」（37.6%）、「自治会・町内会との交流・連携」（37.2%）、「一般市民が参加しやすいイベントの開催」（33.0%）、「身近な川や水路の清掃・美化活動」（28.9%）、「他の環境ボランティア団体・NPO との交流・連携」（25.7%）、「調査結果の発信」（20.6%）、「地域経済活性化への貢献」（8.7%）、「行政からの委託事業」（7.8%）、「その他」（6.0%）の順となっていた。

表5 地域環境NPOの会員の年齢層による「参加の様態」の比較

		44歳以下	45～54歳	55～64歳	65～69歳	70歳以上
基本属性		<ul style="list-style-type: none"> ・全体に比べ、女性の割合が高い ・「学生」の割合が特に高く、「専門職」「パート・アルバイト」の割合がやや高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に比べ「会社員」「公務員」の割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に比べ、女性の割合がやや高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の割合が高い ・全体に比べ「家事専業」「現在は働いていない」の割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の割合が特に高い ・全体に比べ「農業」「現在は働いていない」の割合が高い
居住歴		<ul style="list-style-type: none"> ・市外が多い ・農家が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地付がやや少なく、市外がやや多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・市外がやや少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・転入が多い ・農家が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地付が多い ・農家が多い
自治会行事への参加・近所づきあい		<ul style="list-style-type: none"> ・「自治会行事への参加の程度」「近所づきあいの程度」が特に低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自治会行事への参加の程度」「近所づきあいの程度」がやや低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自治会行事への参加の程度」「近所づきあいの程度」は会員の平均に近い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自治会行事への参加の程度」「近所づきあいの程度」がやや高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自治会行事への参加の程度」「近所づきあいの程度」が特に高い
入会理由		<ul style="list-style-type: none"> ・「びわ湖の水質と環境への関心」「地域の身近な川や水路の環境への関心」が低い ・「行政との協働関係への関心」がやや低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行政との協働関係への関心」が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の身近な川や水路の環境への関心」はやや低い ・「行政との協働関係への関心」がやや高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「びわ湖の水質と環境への関心」「地域の身近な川や水路の環境への関心」が高い ・「行政との協働関係への関心」が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の身近な川や水路の環境への関心」がやや高い ・「行政との協働関係への関心」が高い
「参加の様態」	「活動への参加の程度」	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や会議への参加の程度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトへの参加の程度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での清掃活動等への参加の程度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、会議、プロジェクト、地域での清掃活動等のすべての参加の程度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での清掃活動等への参加の程度が高い
	「活動の志向性」	<ul style="list-style-type: none"> ・「水辺の楽校」「地域情報のネットワーク化」が高く、「水生生物調査」「研修会」が低い ・「行政からの委託事業」が高く、「身近な川や水路の水質調査、生態系調査」は低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤野井湾探検会」が高く、「水辺の楽校」がやや高い ・「他の環境ボランティア団体・NPOとの交流・連携」「身近な川や水路の水質調査、生態系調査」が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤野井湾探検会」が低い ・「他の環境ボランティア団体・NPOとの交流・連携」が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤野井湾探検会」が高く、「研修会」「地域情報のネットワーク化」が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水生生物調査」「研修会」が高く、「赤野井湾探検会」「地域情報のネットワーク化」は低い ・「身近な川や水路の清掃・美化活動」「身近な川や水路の水質調査、生態系調査」が高く、「他の環境ボランティア団体・NPOとの交流・連携」は低い

的な学生や女性の会員が多い一方、自治会・町内会等の行事への参加の程度は低く、入会理由においては、琵琶湖や身近な水路・河川といった地域の固有の環境への関心は相対的に低かった。地域において、身近な水環境の保全活動に従事している会員は少なく、「びわこ豊穡の郷」を活動の舞台として捉え、自らの興味が強く、関心の高い環境教育や住民への意識啓発といった分野の活動に、活発に参加しているような会員が多いと考えられる。

「45～54歳」の年齢層は、会議への出席の程度は低かったが、プロジェクトへの参加の程度は高かった。「びわこ豊穡の郷」の活動の方向性を決定していくような「コア・メンバー」というよりは、個別のプロジェクトにおいて、活発に活動を行う会員が多いと考えられる。「びわこ豊穡の郷」の活動の中でも、自らの強みを発揮できる分野に、集中的に取り組んでいると考えられる。

「55～64歳」の年齢層は、「びわこ豊穡の郷」の活動への参加の程度はあまり高くはないものの、地域における身近な水環境の保全活動に活発に参加していた。入会理由においては、地域の身近な水路や河川への関心が相対的に低い一方で、行政との協働関係への関心が高く、他の主体と交流・連携を図る活動を重視していた。地域に軸足を置きながらも、そのみに特化することなく、他の主体との交流・連携についても重視していると考えられる。

「65～69歳」の年齢層は、現在の「びわこ豊穡の郷」において、会議や行事に活発に参加し、さまざまなプロジェクトにも参加していた。「びわこ豊穡の郷」の中心的な担い手である「コア・メンバー」の会員が多いと考えられる。「びわこ豊穡の郷」の方向性を決定する立場にあり、会員の「活動の志向性」を調整しながら企画・運営を行っていることから、「活動の志向性」については、会員全体の傾向に近くなっていると考えられる。

「70歳以上」の年齢層は、自治会・町内会の行事に活発に参加するなど、地域社会に軸足を置いた生活を営み、入会理由においては、身近な水路・河川への関心が高く、身近な水環境の保全活動に活発に参加していた。守山市では、自治会・町内会を単位とした水環境保全活動が活発に行われており（山添他，2003）、「70歳以上」の年齢層は、このような水環境保全活動の中心メンバーとなっている会員も多い。「びわこ豊穡の郷」で活動を行うよりも、自らとの関わりの深い身近な水路や河川の保全を重視していると考えられる。

7. 「地域リーダー」としての地域環境 NPO の会員

7.1. 地域環境 NPO の会員の「地域リーダー」のタイプ

地域環境 NPO の会員の年齢層による「参加の様態」の違いをもとに、会員の「地域リーダー」のタイプについて仮説的に検討を行う^{*15}。

「地域リーダー」をめぐる議論においては、コミュニティ論における類型が参照可能であろう。

*15 「びわこ豊穡の郷」の会員は、守山市民が中心であるが、守山市外に居住する人たちも含まれている。市外に居住している人たちについても、それぞれが居住する地域において、自治会等の地域活動に取り組んでいると考えられることから、「地域リーダー」のタイプを検討する対象に含むこととする。

奥田（1993）は、「地域リーダー」について、5つのタイプを提示している（表6）^{*16}。

表6 「地域リーダー」のタイプ

リーダーのタイプ	リーダーの特徴
名望家型リーダー	・密度の濃い近隣関係を維持し、一枚岩的な地域集団である「町内会・部落会」の有力な担い手である
役職有力者型リーダー	・多元的機能団体へと衣替えをした「町内会・部落会」において、行政関係の“役職”（委員、団体役員など）を複数受託している
活動家型リーダー	・個人の資質、力量が問われるような個別の生活関心、要求に見合うクラブ、サークル型の組織活動の担い手である
有限責任型リーダー	・個人の得意とする分野や職業を含むキャリア、生活体験の蓄積などにおいて独自の能力、タレント性を発揮する
調整型リーダー	・コミュニティ活動の「鍵の人」（キーパーソン）といわれ、万能型で調整能力に長ける

（注）奥田（1983）および奥田（1993）をもとに筆者らが作成

奥田による類型では、地域社会の特性に応じて、「地域リーダー」のタイプは異なるものと想定されている。分析から得られた各年齢層の特徴を奥田の類型に当てはめ、地域環境 NPO の会員の「地域リーダー」のタイプについて、仮説的にモデル化を行う（図2）。

第1に、「44歳以下」については、自治会等の地域活動への参加の程度が低い一方で、「びわこ豊穡の郷」においては、会議や行事等に活発に参加していた。「びわこ豊穡の郷」への入会理由において、「行政との協働関係への関心」は低く、自ら個別の生活関心や要求に基づき、活発に活動を行う「活動家型リーダー」が多いと考えられる。

第2に、「45～54歳」については、自治会等の地域活動への参加の程度は、やや低いものの会員全体の傾向に近く、「びわこ豊穡の郷」においては、個人の得意とする分野を活かして、個別のプロジェクト等に活発に参加していた。入会理由において、「行政との協働関係への関心」

*16 「名望家型リーダー」は、「密度の濃い近隣関係を維持し、一枚岩的な地域集団である「町内会・部落会」の有力な担い手」（奥田，1983：29）であり、「共同体的（ムラの）規制にのりうる」（奥田，1983：29）リーダーであるとされている。「役職有力者型リーダー」は、「行政ルートの分化（特殊専門家）に対応した多元的機能団体へと衣替え」（奥田，1983：29）をした「町内会・部落会」において、「行政関係の“役職”（委員、団体役員など）を複数の受託した」（奥田，1983：29）リーダーであるとされている。「活動家型リーダー」は、「個人の資質、力量が問われる、活動、運動家型」（奥田，1993：15）であり、「地域ぐるみの町内会型ではなく、個別の生活関心、要求に見合うクラブ、サークル型」（奥田，1993：15）の組織活動に特徴があるとされている。「有限責任型リーダー」は、「個別の生活領域、専門分野で一定の役割を果たすタイプ」（奥田，1993：201）とされており、「個人の得意とする分野や職業を含むキャリア、生活体験の蓄積などにおいて独自の能力、タレント性を発揮」（奥田，1993：201）するタイプとされている。「調整型リーダー」は、「コミュニティ活動の「鍵の人」（キーパーソン）といわれる」（奥田，1993：201）「調整能力に長けた万能型リーダー」（奥田，1993：201）とされている。

は特に低く、行政とは独立し、自らの得意とする分野において、独自の能力、タレント性を発揮する「有限責任型リーダー」が多いと考えられる。

第3に、「55～64歳」の年齢層については、自治会等の地域活動への参加の程度が高い一方で、「びわこ豊穡の郷」への関わりにおいて目立った特徴は見られなかった。現状では、フォロワー的な層が多いと考えられるが、今後、退職を迎える人たちも多く、時間的余裕が生まれることにより、NPO活動への参加の程度が高まる可能性もあり、「調整型リーダー」への移行期にあるとも捉えることができる。また、「びわこ豊穡の郷」への入会理由において、「行政との協働関係への関心」が高いことから、「役職有力者型リーダー」への移行期にあると捉えることもできる。

第4に、「65～69歳」の年齢層については、自治会等の地域活動に活発に参加しながら、「びわこ豊穡の郷」においても「コア・メンバー」として中心的な役割を担っていた。「びわこ豊穡の郷」への入会理由において、「行政との協働関係への関心」はあまり高くなく、自治的に地域課題に取り組もうとする「万能型」で調整能力に長けた「調整型リーダー」が多いと考えられる。

第5に、「70歳以上」の年齢層については、「びわこ豊穡の郷」の活動への参加の程度があまり高くない一方で、自治会等の地域活動には活発に参加していた。「びわこ豊穡の郷」への入会理由において、「行政との協働関係への関心」が高いことから、自治会長・町内会長などの役職を経験し、地域の中心になっているような「役職有力者型リーダー」が多いと考えられる。

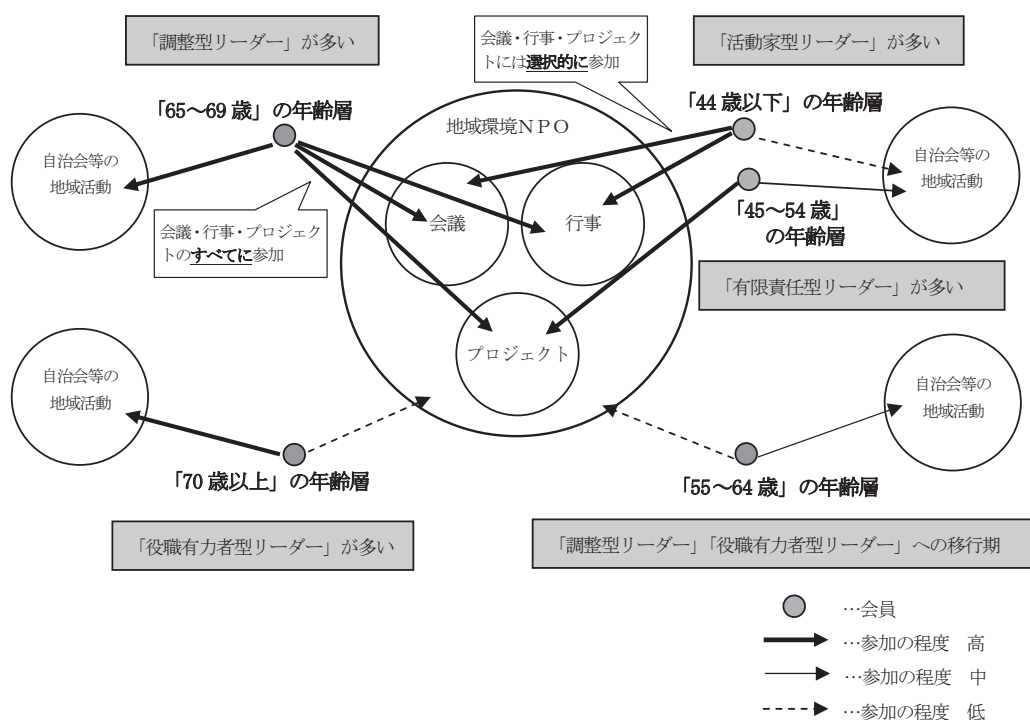


図2 地域環境 NPO 会員の「地域リーダー」のタイプについての仮説モデル

7.2. 地域環境 NPO の会員と「地域リーダー」の成長過程

地域環境 NPO の会員の「地域リーダー」のタイプは、年齢層により、その特性が異なる可能性が示された。「地域リーダー」のタイプについては、どの時代に生まれ、どのような時代を過ごしてきたかという世代によって異なるものとして捉えられるが、ここでは、会員がライフステージに応じて、そのリーダーのタイプを変化させているものとしても捉えてみよう（図3）。

例えば、「44歳以下」については、「活動家型リーダー」が多かったが、自治会等の地域活動への参加の度合いが強まることによって、「有限責任型リーダー」や「調整型リーダー」へと成長していく可能性を有している。また、「45～54歳」の年齢層については、「有限責任型リーダー」が多かったが、自治会等の地域活動への参加の度合いが、さらに強まることにより、「調整型リーダー」に移行していくこともあり得る。「55～64歳」は、リーダーとしての特徴が顕著ではなく、「調整型リーダー」「役職有力者型リーダー」への移行期にあるとも考えられる。「65～69歳」の年齢層については、「調整型リーダー」が多かったが、高齢化等の理由により、NPO活動への従事時間が減少し、自治会等の地域活動に専念することによって「役職有力者型リーダー」へと変化することもあり得る。逆に「役職有力者型リーダー」がNPO活動への参加の度合いを強めることによって、「調整型リーダー」へと成長することもあり得るであろう。

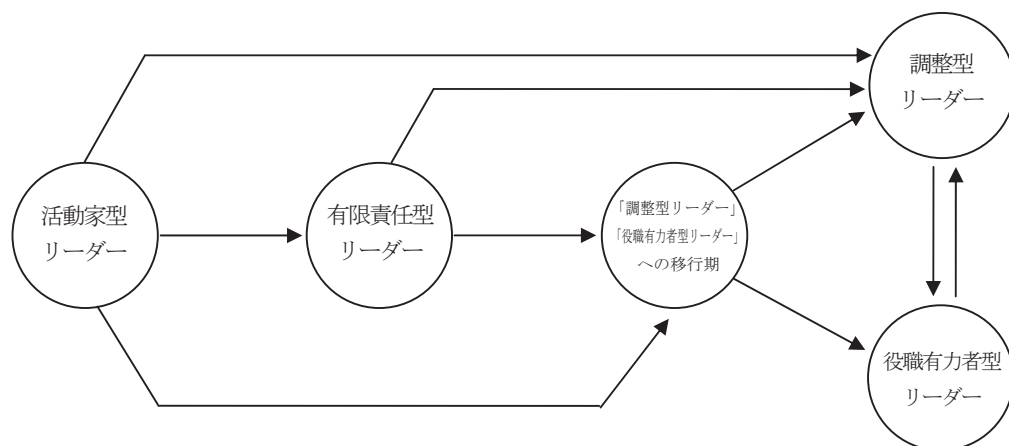


図3 「地域リーダー」の成長過程についての仮説モデル

7.3. 今後の課題

本稿では、地域環境 NPO の会員の年齢層による「参加の様態」の違いをもとに、会員の「地域リーダー」のタイプについて検討を行ったが、そのモデルは、仮説の提示にとどまるものである。今後の課題として、以下の3点があげられる。

第1に、「地域リーダー」のタイプに影響を与える年齢層以外のパーソナルな要因を明らかにすることである。例えば、同じ地域に住み続けている「地付」の人たちと、他の地域から「転入」

してきた人たちでは、「地域リーダー」のタイプは、異なるものと予想される^{*17}。他にも、性別や職業、所属集団の相違、農業就労の有無などの要因が「地域リーダー」のタイプに影響を与えていると考えられる。

第2に、「地域リーダー」のタイプと地域特性との関係を明らかにすることである。奥田の類型では、地域特性に応じて「地域リーダー」のタイプは異なるとされているが、本稿では、地域特性についての分析はできていない。会員の居住地の特性と「地域リーダー」のタイプの関係について、検討を行うことが必要であると考えられる。

第3に、アンケート調査などの量的データを、インタビューや参与観察などの質的調査の結果と照合させることが、より具体的な検証を行う上で有効であると考えられる。

今後、上述した3点の課題を中心に、地域環境 NPO の会員と「地域リーダー」の関係について、さらに研究を進めていくこととしたい。

文献

- 広瀬幸雄, 1995, 『環境と消費の社会心理学——私益と共益のジレンマ』名古屋大学出版会。
- 石田祐, 2008, 「ソーシャル・キャピタルとコミュニティ」稲葉陽二編『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社, 81-103.
- 野田浩資・亀田絢一・山添史郎, 2000, 「環境ボランティア参加の規定要因と地域社会——滋賀県守山市の赤野井湾流域協議会を事例として——」『福祉社会研究』（京都府立大学福祉社会学部）1：12-24.
- 野田浩資編, 2009, 『琵琶湖の水環境保全とローカルガバナンス——環境 NPO による多主体連携の可能性と課題』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書（（基盤研究（C）, 2007～2008年度））。
- 奥田道大, 1983, 『都市コミュニティの理論』東京大学出版会。
- 奥田道大, 1993, 『都市型社会のコミュニティ』勁草書房。
- 奥山尚子, 2009, 「地域ボランティア活動の決定要因——JGSS-2006 を用いた実証分析」『JGSS（日本版総合社会調査）研究論文集』9：107-122.
- 霜浦森平・山添史郎・塚本利幸・野田浩資, 2002, 「地域環境ボランティア組織における自立と連携」『環境社会学研究』8：151-165.
- 霜浦森平・山添史郎・植谷正紀・塚本利幸・野田浩資, 2009, 「地域環境 NPO の活動の包括性とジレンマ——滋賀県守山市の NPO 法人『びわこ豊稷の郷』を事例として——」『環境社会学研究』15：104-118.
- 宍戸邦章, 2008, 「中高年の地域ボランティア活動促進要因と地域生活満足度——JGSS-2006 に基づく分析——」『JGSS（日本版総合社会調査）研究論文集』8：41-65.
- 塚本利幸・霜浦森平・山添史郎・野田浩資, 2002, 「地域環境ボランティア活動への参加と生活経験」『福井県立大学論集』21：39-55.
- 塚本利幸・霜浦森平・山添史郎・野田浩資, 2004, 「環境ボランティア活動の多様性と参加の規定要因

*17 「びわこ豊稷の郷」が主に活動を行う守山市は、混住化地域であるために、会員の居住歴は、さまざまに異なっている。1960年に29,207人であった守山市の人口は、1980年には、46,763人に増加し、2010年には、76,560人にまで増加している。「70歳以上」の年齢層は、守山市に住み続けている「地付」の人たちが多いが、「65～69歳」の年齢層は、市外から守山市に「転入」した後、新興住宅地などで、コミュニティを創り上げてきた人たちが多くと考えられる。混住化に伴う「地付」「転入」という居住歴の相違が「地域リーダー」のタイプの相違をもたらしている要因の1つであると考えられる。

- 参加意欲と参加経験のギャップをめぐって』『福井県立大学論集』23：73-90.
- 塚本利幸・霜浦森平・山添史郎・野田浩資，2012，「ボランティア活動参加と地域活動参加，近隣交際の関連についての考察——福井市の事例から——」『ふくい地域経済研究』15：15-36.
- 山添史郎・霜浦森平・塚本利幸・野田浩資，2003，「地域社会における水環境保全の『担いのしくみ』——滋賀県守山市を事例として——」『水資源・環境研究』16：9-20.
- 山添史郎・霜浦森平・植谷正紀・塚本利幸・野田浩資，2008，「地域環境NPOの参加者の居住歴と活動の志向性——滋賀県守山市のNPO法人『びわこ豊穡の郷』を事例として——」『水資源・環境研究』21：25-34.
- 山添史郎・霜浦森平・塚本利幸・野田浩資，2012，「地域環境保全活動への参加と社会関係資本——滋賀県守山市のNPO法人『びわこ豊穡の郷』を事例として——」『環境社会学研究』18：155-161.

付記

NPO法人「びわこ豊穡の郷」の皆様には、長年にわたり筆者らの研究グループの調査にご協力いただいている。ここに記して感謝の意を表す。本研究は、2007年～2008年度科学研究費補助金基盤研究（C）『琵琶湖の水環境保全とローカルガバナンス——環境NPOによる多主体連携の可能性と課題』（研究代表者：野田浩資〔京都府立大学〕）および2009年～2011年度科学研究費補助金基盤研究（C）『ローカルガバナンスの形成過程——多主体連携による環境保全と地域経営』（研究代表者：野田浩資〔京都府立大学〕）による研究成果の一部である。

(2012年11月15日受理)

(やまぞえ しろろ 滋賀県日野町教育委員会事務局生涯学習課主査)
(しもうら しんぺい 千葉大学大学院園芸学研究科助教)
(つかもと としゆき 福井県立大学看護福祉学部准教授)
(のだ ひろし 京都府立大学公共政策学部准教授)